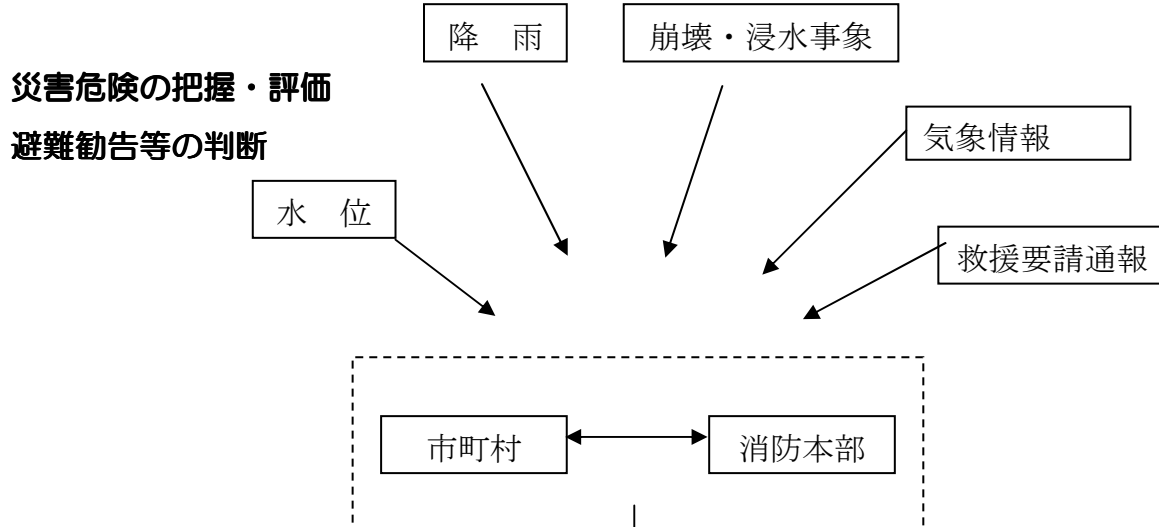


豪雨時の警戒避難活動の過程

A：意思決定過程



B：伝達過程

住民への情報伝達

C：受容過程

住民の警戒と避難
(住民の避難誘導)

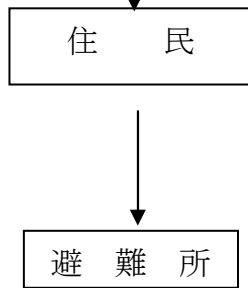


図1 豪雨時の警戒避難活動の過程

1. プロアクティブの原則（下記の3つ）にのっとり行動できるか？

それを保証する災害（防災）文化はあなたの市町村にあるか？（A）

- ① 疑わしきは行動せよ
例：大雨洪水警報を甘くみていないか？
「警報慣れ」が組織に生じる体質はないか？
- ② 最悪を想定して行動せよ
※常識的な「最悪」ではなく「想定外を想定する」ことができるか？
- ③ 空振りには許されるが、見逃しは許されない

それまでの降雨（強雨）が猛烈な豪雨へと急変した。その豪雨が継続したとき豪雨災害の危険が急速に高まっていくと予想される場合

2. あなたの組織は、強雨から豪雨への急激な変化に対応できるか？ 「ゆで蛙」にならない保証はあるか？（A）

- (1) 意思決定に空白を生じる懸念はないか？ 首長と幹部・部下との連絡は確実に取れるか？ 連絡不能な場合の対策は考えられているか？
- (2) 災害危険の把握・評価
 - ① 管内における事態進行状況（危険度の進行状況）を迅速的確に把握できる能力・体制はあるか？
 - ② 災害が発生してから、あるいは危険が目前にならないと判断できない（しない）意識に部下が陥っていないか？
 - 動員が空振りになるのが怖い＝残業代で財政課から非難されたくないという意識が部下にないか？
 - 担当者個人で意思決定を行いたくない＝個人責任を追及されたくないという意識が部下にないか？
- (3) 参集指示をしなくても部下は参集してくるか（自主参集基準は機能するか）？
- (4) 避難の準備、勧告、（指示）
 - ① 避難準備、避難の勧告、避難の指示のタイミングを的確につかめるか
そのタイミングに住民への周知に要する時間が織り込まれているか？
活動環境（市民にとっては行動環境）を考慮しているか？
タイミングを失したときはどうするか？

- ② 避難勧告（避難準備、避難指示）至上主義に陥っていないか（避難勧告等を出せば自動的に住民の安全が担保されると勘違いしていないか）？
- ③ 避難の色々なケースを想定して広報文案が用意されているか？
- ④ 「川があぶないときは山もあぶない」と気づくことができるか？

3. 住民への適切な広報手段はあるか？（B）

関係者（行政、マスコミ、市民）が刻々変わる災害イメージを正確にほぼリアルタイムで共有することができるか？

- 耐災性の高い即時一斉広報手段の確保が前提（携帯性が高いほど良い）
- 「心構えを促す」、「臨場感（危機感）」、「リアルタイム」が広報戦略のポイント。管内で何が起きているか、起きつつあるかを地理的にイメージできるような広報が良い（モニタリングポイントとの関係が重要）
- 早めの自主避難の促すことの重要性
- 「正常化の偏見」、「中心化傾向」とどう闘うか？
- マスコミとどのように連携するか

4. あなたの地域の住民は早めに避難するか？（C）

① 避難の勧告等の情報が伝わっても避難しない住民が多い

<理由>

ア 住民が危険性を理解できない

- 災害状況の進展状況をリアルタイムで知ることができない
- 危険箇所を知らない、知らされていない
- 長期間被災経験のない住民の多くが危険性を誤解している

イ 避難するのに大きな負担

- 災害時要援護者が避難を嫌がる
- 避難所が近くにない

② 平常時の防災教育（特に土砂災害危険箇所の周知）と早めの自主避難を促す広報戦略の実践が重要

5. 避難所や避難経路は安全か？（C）

6. 活動拠点（庁舎）は最後まで機能するか？（A）